

# 道有林創設110周年記念誌



表紙写真：有用広葉樹が残る天然林（十勝管理区）

## はじめに

道民共通の財産である道有林は、豊かな森林資源を背景に木材の生産等を通じて産業の振興や経済の活性化、雇用の確保、道及び市町村の財政等に寄与するとともに、水源のかん養や国土の保全など、森林の持つ公益的機能を発揮しながら、長年にわたって地域の振興や道民生活の向上などに貢献してきました。

こうした中、近年、道有林におけるトドマツを中心とした約13万ヘクタールの人工林が利用期を迎えつつあり、昭和30年代の積極的な拡大造林やその後の造林の停滞により、年齢構成に著しい偏りが生じていることなどから、人工林の世代交代を早急に進め、バランスのとれた健全で活力のある森林に誘導していく必要があります。

このため、平成28年度に道有林基本計画を見直し、新たな計画では、森林の公益的機能の維持増進を図るといった基本的な考えの下、人工林の主伐・再造林を積極的に進め、適切な施業を通じて生産される木材の供給量を拡大するなど、「植えて育てて、伐って使って、また植える」という森林資源の循環利用に率先して取り組み、森林の多面的機能を持続的に発揮する森林づくりを推進することとしています。

また、平成28年度は、道有林が本道に創設されてから、ちょうど110周年の節目に当たります。

道では、昭和31年の「道有林五十年誌」の発刊以来10年ごとに、道有林野の整備及び管理に関する事業（以下「道有林野事業」という。）の「最近10年のあゆみ」を、60年誌、70年誌、80年誌、90年誌として発刊してきたほか、平成18年には記念すべき100年誌が「道有林百年の歩み」として社団法人北海道造林協会から発行されたところです。

この度、発刊する記念誌は、道民に身近な道有林を目指すため、これまでの記念誌の構成を見直し、写真・図表の多用や道有林の見どころを紹介するなど、道民の皆様にとってわかりやすく親しみやすい内容にするとともに、道有林野事業の最近10年のあゆみについても、統計資料として使えるよう配慮しています。

本誌が、道民の皆様にご覧いただきたくための一助となれば幸いです。

平成29年3月

北海道水産林務部長 小野寺 勝広



# 目 次

## 【本編】

○ 沿 革	1
○ 道有林の位置	2
○ 管理面積	3
○ 森林の概要	4
○ 組織と会計制度の変遷	6
○ 道有林基本計画	7
○ 保安林	8
○ 自然公園	9
○ 各事業の紹介	10

## <各管理区の紹介>

・ 空知管理区	17
・ 後志管理区	19
・ 胆振管理区	21
・ 日高管理区	23
・ 渡島東部管理区	25
・ 渡島西部管理区	27
・ 上川南部管理区	29
・ 上川北部管理区	31
・ 留萌管理区	33
・ 網走東部管理区	35
・ 網走西部管理区	37
・ 十勝管理区	39
・ 釧路管理区	41

## <トピックス>

・ 保残伐施業の実証実験	15
・ 森林認証の取組	16
・ カーボン・オフセットの取組	43

## 【資料編】

○ 立木販売事業	44
○ 造林事業	47
○ 林道事業	52
○ 治山事業	57
○ 道有林を管理する森林室	67

